



渋谷区立原宿外苑中学校

令和6年6月号（5月31日発行）

学校だより

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/haragaij>



「メタ認知」と「学び」

校長 駒崎 彰一

「メタ認知」とは「認知（知覚、記憶、学習、言語、思考など）について、客観的に認知する」ことを意味します。簡単に解説すると「自分で自分を客観視すること」つまり「冷静で客観的な判断をしてくれる頭の中の自分」のことです。

もともとは認知心理学で使われていた用語ですが、最近になって教育関係や人材育成、経営などの業界で重要な能力の一つとして注目されるようになってきました。

この「メタ認知」は、小学校高学年から中学生にかけて急速に発達することがわかっています。この時期に「メタ認知」が発達してくると学校の中でも次のような行動が見られるようになります。

これまでは一方向的に自分の好きなことを好きなように話していた子が、相手の様子を見て「自分の話があまり理解されていないようだ」と気づくと、説明の仕方を変えるといった行動が見られるようになってきます。

毎日、中学生と接している教師の視点からも、中学校1年生から2年生にかけて、「メタ認知」の成長によって大きな変化を迎える子が多いように感じます。

学習効果を高めるために、この「メタ認知」が重要であるという考え方が広がってきています。

この「メタ認知」を「学び」の場面で考えると、「どう覚えると覚えやすいのか」「学習全体はどのように進んできたのか」などを、第三者の視点で冷静に自身を振り返ったり、評価したりすることになります。

このようなことが考えられるようになってくると学習の仕方（心構え）が変わってきます。

第一に、学習を始めるにあたり具体的な「目的」をしっかり考える傾向が強くなります。たとえば、定期テストの勉強はイヤでもやらねばならないものですが、「メタ認知」が成長してくると「何のためにテストをやるのか」という「目的」を考えるようになります。「やらないと親に怒られて自分がイヤな思いをするから」という感情面だけではなく、「将来なりたい自分のために」や「基礎知識を習得して自分の力とするため」など、先を見据えた自分自身の「目的」を考えることができるようになっていわれています。

第二に、「目的」を自分なりに設定するようになるため、学習の仕方や内容が「目的」に合った「手段」となっているかどうかのチェックもできるようになります。たとえば「基礎知識を習得して自分の力とするため」を「目的」に設定した場合、自分で過去の問題を一度だけ解くだけでは定着に不十分であると分析し「自分で問題を解き、間違えたら正解するまで解き直す」といった判断ができるようになります。

「メタ認知」が成長してくると、「目的」と「手段」を意識して、Try&Error（試行錯誤）を繰り返していくことが可能になってきます。つまり、主体的に学びに取り組むことができるようになってくるということです。

人は、様々なことで成功や失敗の体験をくり返し、試行錯誤することで知識やスキルを身につけていきます。「メタ認知」を育てていくためには、成功や失敗に一喜一憂するだけでなく、どのようなことが影響したのかを冷静に分析して次に活かすことが重要であるといわれています。明確な「目的」を持ち、様々な「手段」で試行錯誤してみる。そして冷静に成功や失敗を分析して、前進していったほしいと思います。

定期テストを「メタ認知」育成のための「良い機会」として捉えると成長につながるのではないのでしょうか…

冷静に今の状況を分析してみる…そして試行錯誤する…

とにかくやってみましょう！

体育祭

5月18日(土)伝統の体育祭が開催。「快晴」の中での生徒が主体となり創り上げた体育祭でした。



生徒総会

5月28日(火)生徒総会が開催されました。より良い学校生活を目指し、活発な自治活動になっています。



原宿外苑「干芋」プロジェクト

「株式会社 壮関 <https://sokan.jp/>」と Collaboration して、原宿外苑産のサツマイモを栽培。干芋に加工して、原宿外苑産「干芋」として製品化しよう!というプロジェクトです。

近隣の小学校(神宮前・千駄谷・鳩森)とも連携した取り組みです。

素材で、にっこり。

Sokan



「眉毛ホームルーム」 in 原宿外苑

KISSME

私らしさを、愛せるひとへ。

江戸時代から続く老舗の化粧品総合メーカー「株式会社 伊勢半」(伊勢半グループ)との Collaboration で「メイク」について探究するスペシャル授業を3年生で実施しました。(後日1・2年生も実施します!) 夢中に取り組んでいました。



